

【21世紀は人権の世紀】

学級づくりと自尊感情

～優しさにつつまれて～

仲島 正教

1. 学級づくりは、子どもの理解に始まり、子どもの理解に終わる
「先生は、ぼくのことほんまによう知っとる」
2. 私を待つ人は誰？
「私のこと待っていてくれるよね・・・」
3. 子どものつまずきをとるのではなく、つまずきを乗り越える力をつけてやること。
つまずいた時、それは成長のチャンス
4. 優しい子に育てたい。
優しさのあふれる中で育った子は優しくなれる
5. 自尊感情は周りの声で育つ。
先生の声、友だちの声、親の声、学級づくりの声
6. 子どもの心に感動の貯金を
心に感動の貯金のある子は、苦難を乗り越えられる
7. 何ととっても授業が一番。
授業を大切にすること、授業を通しての学級づくり
8. 学級通信のすすめ。
「私らのことがのってるで。私らもなかなかのもんやね」
9. 一番厳しい立場の子が大切にされる学級を
あの子この子が目を輝かせているよ
10. 先生からのプレゼント「本気で、喜怒哀楽。」
心から「よかったな」「いけないぞ」「すみません」「ありがとう」
11. 仲間づくりは、具体的な行動の中で育てることがポイント
リレーの学習で仲間づくりができた、総合学習の中で学級づくりができた
12. 感動は、人間を優しく、温かく、大きくしていく。
「オレ涙出てもうた」 おまえのこといつも応援しているぞ
13. あーよかったな あなたがいて。あーよかったな あなたといて。「幸せ！」
～つながりと感動の生活を～ 月日（つきひ）の指導の大切さ

番外編～ 自尊感情を育てる「懇談会」とは・・・～

説教じみた話はやめましょう。

- ・そんなことはわかっています、でもでけへんの。
- ・また長い話か。
- ・ぐちをこんな席で言わないで。

クラスの子の実態、なかでも「いい話」は、聞いていて気持ちいいし、うれしくなる。そこに自分の子が関係してたら、なおうれしい。そしてそれが人権教育だといわれると、人権教育っていいなあ、大事ななあって思ってきます。

おみやげ話をもって帰ってもらおう。

- ・今日ね、あんたのクラスの　　の出来事のこと、先生から聞いたよ。あんたらのクラスっていいクラスやね。
- ・今日先生から、あなたのこと聞いたよ。あなた　　したんだって。えらいなあってお母さん感動しちゃったわ。
お母さん（お父さん）を気持ちよく帰らすことです。すると子どもも気持ちよくなるし、家庭が温かくなります。

懇談会の最初と最後は工夫したい。

- ・「つかみ」と「おち」は大切です。　　笑いで入って感動で終わるのが最高ですが・・・。
- ・心温まる子どもの作文、詩、出来事は、必ずメモをしておくといいです。
- ・運動会、音楽会の、かげでの出来事、感動の秘話・・・。

懇談会に残ったお母さんには、一人ひとりにその子のいいところを担当から言ってあげましょう。次回もその次もその次も言ってあげましょう。すると懇談会に来ることが楽しみになるし、それを他のお母さんにも言うので、きっと懇談会の人数は増えていきます。そのためには担任はクラスのすべての子のいいことを準備することになります。来ない子の話はその日は無駄になりますが、家庭訪問や個人懇談や通知票のいい材料になります。それに全員の準備をするために担任はよりよく子どもを観察することになり、結果として、担任の子ども理解が驚くほど深くなります。

子どもの自尊感情は、「親のあたたかい声」「友だちの優しい声」「先生のほめる声」で、どんどん育っていきます。親の自尊感情も、「我が子の生き生きした声」「友だちの元気な声」「先生の理解の声」でどんどん育っていきます。そして「その子の明るい声」「友だちの輝く声」「親の信頼の声」で、先生の自尊感情もどんどん育っていきます。家庭や教室は自尊感情を育てる絶好の場所なのです。みんなを、そして自分を好きにしましょう。